第16回
少年の主張
発表会
H9.8.3 公民館

“伸びよう伸ばそう青少年”

「村民の青少年健全育成に対する関心を高め理解を深めてもらおう」と、毎年行われている『少年の主張発表会』が、今年も先月三日公民館講堂で行われ、代表十名が力強く発表しました。

もうひとつの言葉

岩小六年　三部　未智さん

わたしは、手話が大好きです。いとこがやっているのを見て、うらやましくてはじめました。

手話をやってて、「良かったなあ」と思うことがあります。それは、耳が聞こえない二人の人に出会った時のことです。その人達が手を動かして話しているのを見て、「あっこれは手話だ。この人達、耳が聞こえないんだ」と、思いました。その人達と目が会ってしまい、どうしたらいいかわからなかったけれど、思いきって「こんにちは」と手話で話してみました。その人達も笑顔で返してくれ、わたしもとってもうれしくて、なんだか元気がでてきました。

手話は、とてもすてきな、そしてとても大切なもうひとつの言葉です。

相手の気持ちを考えて

和小六年　永井ともみさん

私にはひいおばあちゃんがいます。そのおばあちゃんは今「岩室の里」に入っています。

「岩室の里」には、耳の遠い人や、足が悪くて車いすの人、しゃべれない人など、いろいろな人がいます。その人たちは、病気を治そうと一生懸命です。それなのに、そんなおとしよりの人たちに、いやなことを言う人がいます。それで私は、そのことについて考えてみました。

短所を長所に、私たちの岩室小学校

岩小六年　藤田　優さん

「岩室小学校の長所って何だろう？短所ってどこだろう？」私がこんなことを考えるようになったのは、六年生になり、児童会総務委員会の委員長や金管バンドのドラムメジャーなど、リーダーとして活動する機会に恵まれたからである。

「岩室小学校をもっと良い学校にしたい。良いところをもっと良くし、悪いところは直していかなければ・・・。」

私は、そんな気持ちで自分の活動に取り組んできた。

「さつまいも栽培」や「児童集会」は、みんなで協力してやりとげた。「あいさつ運動」では、みんなで協力したため、短所だったあいさつもよくなってきた。

これからも、「短所」を「長所」に変え、もっとすばらしい学校にしていきたい。

目ざしつづけたい私の中の岩室村

和小六年　広田　友香さん

美しい緑の中に囲まれた明るい村・岩室。この村の発展のために、色々な活動をたくさん行って、少しずつ岩室村を良くしていく事が大切だと思います。

しかし、ただやっているだけでは、何の価値もないと思います。それに村民全員が助け合わなければ、何ひとつよくならないと思いません。

岩室村はダイヤモンドの原石です。一人ひとりが心をこめてみがけば果てしなく輝くはずです。

みんなのために

岩中一年　渡辺可奈子さん

みなさんは、普段どんなことをして生活していますか？私は、みなさんにやってもらいたい活動があります。その活動は、少し手間がかかりますが、手軽にできる活動です。

リサイクルや、慰問などの活動。これは、みんなと自然が、いきいきと生活していくために、大切な活動だと私はおもいます。

一人でも多くの人のために

岩中一年　広澤　智哉くん

僕がこの作文を書いた理由は、小学校の頃、骨折をしてしまったとき、たくさんの人からの手助けを受け、人を思いやる気持ちというものを教わり、僕も人のために何か役立とうと思ったからです。

協力や、人を思いやる気持ちがあってこその地球、これからの未来を守っていくために身近なことから始めようと思いました。

使い方を考えて

岩中二年　佐藤　未奈さん

「バカ」「ブス」「ムカツク」こんな言葉をみなさんは、身近で聞いたことはありませんか。この世の中、そして、自分のまわりでも、人をけなしたり、傷つけてしまう言葉が増えました。私は、みなさんに、言葉について、もっと深く考えてほしいのです。

言葉は、その人の本当の気持ちがこもるものだと、私は思います。言葉の使い方を考えてみんなが、毎日、楽しく過ごせるようにしたいと思います。

偏見を捨てて

岩中二年　高山　美鈴さん

障害を持つことのつらさを理解していますか？そして、障害者に偏見をもっていませんか。

大きなハンディを持っている人たちは必死になってがんばっています。その心をつらくさせてはいけません。

小さな心を大切にしてください。

家族の大切さ

岩中三年　堀越美由紀さん

ふだんはなにげなく一緒に暮らしている家族。みなさんはこの家族を大切だなあと感じたことがありますか。私は祖母の死からこのことを知りました。何か「大切だ」と気づかせてくれることがなければ、わからないままかもしれません。だけど、みなさんには私のように後で後悔しないで早く家族の大切さを知ってもらいたいと思ってこのテーマにしました。

三年最後の郡市大会

岩中三年　宮島　亮くん

僕がこの作文を書いた理由は、顧問の先生に、「ハードルの入賞は無理だ」といわれたことに発奮したからです。

僕はあまりにもくやしかったから、郡市大会までの練習で、先生方にいろいろ指導していただきながらがんばり、みごと入賞をはたしました。

自分には無理だといわれたことでも、これからも積極的にチャレンジし続けたいと思います。

先月28日、弥彦総合文化会館で行われた西蒲・燕地区大会に、岩中一年生広澤智哉さんが出場しました。